

令和元年度 第1回仙台市景観総合審議会 議事録

日 時 令和元年7月12日(金) 午後2:00~4:00
会 場 仙台市役所本庁舎2階 第1委員会室
出席委員 稲葉 雅子委員、杉山 朗子委員、杼窪 昌之委員
橋本 啓一委員、舟引 敏明委員、堀 繁 委員
巖 爽 委員、吉川 由美委員
仙 台 市 都市整備局長、細井次長、計画部長、総務課長
事 務 局 都市整備局計画部都市景観課

【議事】

1. 開 会
2. 都市整備局長挨拶
3. 会長挨拶
4. 事務局からの報告
5. 議 事
 <審議事項>
 ・今後の景観施策のあり方について
 (景観施策の評価検証のまとめについて)
6. 閉 会

【議事録】

1. 開会
 司会 ・ただいまより令和元年度第1回景観総合審議会を開催いたします。
 (配布資料確認)
2. 都市整備局長挨拶
 司会 ・開会に当たりまして、都市整備局長の小野よりご挨拶を申し上げます。

 都市整備局長 ・(局長挨拶)
3. 会長挨拶
 司会 ・続きまして、堀会長、ご挨拶をお願いいたします。

 堀会長 ・(会長挨拶)

4. 事務局からの報告

司会 ・ 前回の審議会以降の報告です第2回屋外広告物部会を3月20日に開催しております。議事は、「屋外広告物条例にもとづく特例許可について」と「屋外広告物ガイドラインの検討について」です。景観総合審議会より提言書をいただいております屋外広告物ガイドラインにつきましても、今後検討を進めてまいります。

5. 議事 <審議事項>今後の景観施策のあり方について（景観施策の評価検証のまとめについて）

司会 ・ 本日の出席状況ですが、小林委員、高山委員、武山委員、馬場委員、不破委員よりご欠席の連絡を頂戴しており、委員13名中8名の出席でございますので、仙台市景観法等の施行に関する規則の規定により会議が成立しております。

堀会長 ・ 議事に入る前に今回の議事録の署名ですが、私と橋本委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。
・ 本日の審議事項は、今後の景観施策のあり方について（景観施策の評価検証のまとめについて）の1点となります。
・ 前回、審議会では事務局のほうから提示された評価検証のまとめに対しまして、私のほうから審議会の意見も踏まえた評価検証のまとめ、さらに、またその先の検討に入っていただきたいとお願いしておりました。

事務局 ・ (資料説明)

堀会長 ・ パワーポイントの資料でいきますと、15ページまでが前回の審議会の振り返り、まとめで、16ページ以降が今回新たに事務局のほうから提示されました今後の取り組み、あるいは今後目指していくべき姿に対してどういう施策をとっていったらいいのかという話がありました。
・ 主に今後の取り組みについて議論していただきたいのですが、まずは、パワーポイントで言うと、15ページ目までについてご意見・ご質問をいただきたいと思います。特にヒアリング、大学生のアンケートは前回までなかったもので、今回新しい部分です。

巖委員 ・ 大学生30名のアンケートについてです。実は私の研究室の学生は非常に仙台の景観に関心が高く、パワーポイントに出ているもので、卒業論文で既に研究されているものがあります。例えば公園ですと、勾当台公

園と最近東京で話題になっている南池袋公園の比較。屋上緑化ですとイービーンズの屋上と東京の東急プラザのおもはらの森という屋上庭園との比較などです。商工会議所から通行データをいただいて、アーケードの通行人の追跡調査もしました。店に入っていく人が結構少なく、特に若い人は素通りしているという状況がわかってきています。

- 堀会長
- ・仙台の今の現状として、どういうところに課題、問題があるか、どういう点が弱くて、どういう点が強いのか、整理しておくということが大事かもしれません。
 - ・今のに関連するかもしれませんが、何度か「緑豊かで美しい」というフレーズが出てきました。
 - ・“緑豊かだと美しい”、つまりこの章で言っている“緑豊かだ”ということの修辭的に美しいと言っているのでしょうか。それとも“緑豊かであつ美しい”、つまり緑の豊かさ、ボリュームと、美しいとは異質ですから、緑豊かであつ美しいと言っているのでしょうか。もしも後段の緑豊かであつ美しいであるとする、一体どうであると緑が豊かになるのか、どうであると美しくなるのか。緑豊かで美しくないというのも当然あるはずです。山の中は、緑豊かなところ、藪だと別に美しくは思わないです。
 - ・“緑豊かであつ美しい”とすると、一体都市の中の緑はどうであつたら美しいと我々は感じるのか、市民は感じているのか。そこが明らかになると、より美しさを進めるためにはどうしたらいいか、美しくなるようにするためにはどんな研究をするといいのかがよりわかります。緑の中で美しいという言葉が割と普通の言葉として出てきているのですが、本当に緑豊かだと美しいのだろうかと思いました。
 - ・質のほうを目指していくのであれば、美しいというのも質なので、そのあたりをもう少し踏み込んで、これから考えていかなければならないと思いました。
 - ・それでは、後段のほうにいきます。パワーポイントの資料でいくと 16 ページ目、めざしていく街の姿。どういう方向をめざしていくか。特に具体的なイメージとすると 19 ページ以降、都心部で実現したいイメージということで書かれていますが、ビジュアルでも示されていますので、こちらについて、どういう街の姿が仙台市がめざすべき方向なのかにつきまして、ご意見をいただければと思います。

- 廠委員
- ・先ほどの卒業論文の話ともつながるのですが、卒業論文の一つの方法論

として、環境行動研究というものがあります。環境行動研究とは、人が街の中でどういうふうにごろごろしているかなど、やはり人を見るのです。

- ・誰もいなくても公園は美しいかもしれないですが、公園において緑豊かで美しいというのは、人を主軸として考えると、公園の賑わいや、公園が生き生きとした姿など、公園がきちんと市民の居場所となっているもので、そのようにしていくには、やはり人を見ていかないといけません。今後、街並み景観をつくっていく時には、人にどう使ってもらいたいか、人に使ってもらうための工夫はどういうものなのかというような、人により着目した視点が必要なのだと思います。資料の写真もそれが歴然です。
- ・人が全然使っていないという状況に対しては、法規制によってそれ以上できない部分や、飲食施設を広場や公園の中につくっていいか、ベンチの置き方はどうかなど、法規制的にクリアしなければいけない部分の整理と、空間や環境のしつらえで整理していくべき点などの分析を今後していくといいと思っています。
- ・今日のプレゼンを聞かせていただいて、仙台市は本気でやろうとしているなという意気込みを感じています。今まで海外の事例を出しても、海外と比べてもという雰囲気があったりしました。今回、海外の写真と比較をして、まさに今の仙台市の課題があつて、こういったことをこの審議会では何らかの方向性を示し、解決できたらいいなと思っています。

- 堀会長
- ・一つは、人という視点が欠かせないのではないかというお話がありました。人を主役にしないで、人が使わないのに緑だけ美しいということはないのではないか。やはり人が見て美しいと感じるわけだから、あくまで人が主役であつて、人にもっと寄り添い、人を大事にして、人を誘うような空間に緑があつた時に、初めて緑は本当の緑の力を発揮するのであつて、まずは人に対する配慮、そのようなものが重要なのではないかと、そういう話でした。
 - ・それに付随して、飲食提供などは食品衛生法等の法令などに従うのは当然ですが、必ずしも別に飲食を伴わなくてもできることはたくさんあるかと思いますが、そういう視点も重要だというお話がありました。
 - ・それから、最後に、こういうことに仙台市が本気で取り組むということに賛意を示すという力強いお話がありました。

- 杉山委員
- ・仙台市の持っている宝みたいな並木道を生かしていこうという方向性は、

取りかかり方としても重要で、よろしい施策なのかなと感じました。それに関してですが、最近、東京のプロジェクトでは、ビルのオープンスペースに人を座らせようということで、様々な計画があります。

- ・民間の飲食店の前に、パブリック的な空間を設け、ベンチも座るだけでなく、テーブルになるなどパターンをうまく増やせるようなベンチで、人をそこに滞留させるというような、民間とパブリック、といっても全体の大きい役割は不動産の仕事ですが、そういう工夫などが増えてきています。そういった工夫を民間と協働で考えていくような方法も考えていただきたいです。
- ・仲通りの事例は、成功例だと思います。現在もいろいろあの辺りでやっていたらしゃるのを私も時々拝見します。その中で、いつも近所の美術館情報などがフラッグで流れたり、季節ごとに色の違うオープンカフェみたいな、街路樹の黄葉に合わせて、黄色いイベントチェアなど、本当に定期的に出てくるおもしろさがあります。仙台市は大きなイベントを幾つかおやりになってはいますが、もう少し機会を増やして、その時ごとに屋台や、色々なもので飲食と座るといことができるといいなと思います。ご研究なさっているとは思いますが、改めて仲通りのイベントの仕方や、出し方を研究いただくといいのかなと思います。それと、不動産業の方たちがやっている新しいオープンスペースのあり方が参考になると思いました。
- ・前回審議会のまとめと今回の今後についてで、気になったところが二つあります。
- ・一つは、景観重要建造物等の指定が、今後どういう保全をしていくのということに関して、ほんの一部しか語られていないことです。前回、私は河原町のほうを拝見してきました。おもしろいなと思いますが、ここでは中心部ばかり語られています。せっかくだから、2度目は河原町に行こうだとか、3度目はどこそこへ行こうというリピート客のためですと、それも点的なところがあるので、もう少し線的、面的な広がり欲しく、おもしろさという面ではまだまだ少し使える感じがあると思います。
- ・もう一つは、お城の方についてです。私の印象だと、寂しい感じがあたりもします。よくわからないのですが、行くと人が少なく、怖い感じがします。イベントの時に行けばいいのかもしれませんが、こういう会議の時について行こうなんて思ったりするものですから、ウィークデイで寂しい感じが少しします。すごく眺望がいいなど、メリットがもう少し情報としてあると、行こうとなります。お城についてはもう立派だから大

丈夫だよと皆さん思っているのかどうかよくわからないのですがお城が今様々なところで盛り上がり、いっぱいある割には、こちらは物足りないと感じます。もちろん歴史的な内容でしたら、すごく充実してきているのだと思いますが、景観や観光などの部分ではもう一つ欲しいなという感じがしていて、ここにもう少し物語りが入り、今後どんな方向を目指すのかといったことにぜひ取り組んでいただきたいなと思います。

- 堀会長
- ・一つ目は、通りの賑わいの話、二点目は、評価検証から得られた今後の課題、これについて抜けているものがあるのではないかとのご指摘です。仙台にとって重要な城について取り上げるべきなのではないかというお話です。
 - ・この 14 の評価検証から得られた今後の課題ですが、これについては、今後、我々がこれからまさに取り組まなければいけない内容です。この 14 に関しても積極的にご意見をいただければと思います。

- 杼窪委員
- ・資料の後半を見ますと、仙台市の中心部ということで、そういう空間をつくるのが少し難しい地域なので、正直な話ここに載っている内容が限度かなと思います。先ほど堀会長がおっしゃった、美しい緑について考えた時に、長屋や横丁などに緑を入れたら、人がつくった人工的な緑であっても美しく見えるのではないかと思います。東京の下町を見ますと、植木が飾ってあったりして、あれ見て変な緑だなと思う人はいないです。
 - ・先ほどの今後の課題で言うと、屋外広告物というか、看板等がごちゃごちゃ建っている横丁もありますが、仙台の横丁文化も確かにごちゃごちゃはしていますが、狭いながらも意外と思ったよりは少ないのではないかなと。そういう横丁文化は我々の年代も、若い人も幅広く好きですし、今後潰れて再開発させてなくなるよりは、仙台市が残す課題としてやっていけるのは、そういう横丁文化を助成かなにかを使いながらきれいにしていくと、何か対外的にも誇れる文化になるのではないかと思います。

- 堀会長
- ・主に公共整備で行う大通りについて重要なのはもちろんですが、路地、これは恐らく路地の魅力という部分になると、公共施設ではなく、民間になるので、従って助成などという話になるわけですが、そういうものも大事なのではないかというご指摘です。
 - ・今日はいろいろなご意見を出していただくのが重要です。いろいろな視

点を出していただいて、それをまた事務局が整理して、具体的な施策にどのように使っていくか、取り組んでいくかということを考える。いろいろな視点を出していただければと思います。

- 吉川委員
- ・ 14 ページで、今後の課題として、街並みを人の関わりによって、より魅力的に、というような内容が出ています。その前段として、大学生のアンケートなどで賑わいや活気を感じる景観があるといいと結果が出ています。
 - ・ 大学生が言っている賑わいや活気を感じる景観が一体何かということをもう少し深く考えるべきではないかと思いました。17 ページ、18 ページの視点1と視点7の取り組みイメージの中で、この賑わいや活気というのが経済活動のほうにかなり偏っておられるのではないかなと思いました。
 - ・ 人の活動、賑わいというのは、決して経済活動だけではありません。もっと人と人がいることで、お互いに人のために自分があることの喜びを感じたり、人と人との人間関係におけるクリエイティブな刺激だったり、先ほどの仲通りのように、人々にとって関心を持てる刺激的なものがそこにあるということ、経済活動とは別の関心のあるものがそこにあるということ、そのことのほうがむしろ賑わいにつながっていくと思います。
 - ・ 次期総合計画の中で、文化にかかわる言葉が歴史、文化遺産、文化資産というような形でしか載ってなく、少し驚きました。東北の中心都市である仙台が、東北というローカリティーを礎に、現代を生きる私たちとしてのカルチャーの発信源になっていなければならないのではないかと私は思います。そういう新しいカルチャーが湧いてこないような街に、決して外国人も来なければ、若い人も来ないと私は思います。
 - ・ その中で、この取り組みイメージを考える時に、仙台を磨き伝えるということの中に景観を置いていくというのは本当にすばらしいし、この都心部の今の緑は、本当に私も誇りに思っています。しかし、これだけの資産が今もありながら、その緑の美しさを生かすリテラシーが不足していると思います。
 - ・ 例えば私が交通局に電話しようと思ったくらい悩んだのは、地下鉄の東西線の吉川晃司のキャンペーンについてです。国際センターからよく乗りますが、そこで地表に出て広瀬川を渡ってまた地下に入る時に、すぐく川と緑の景色がぱあっと入ってくる、最大限にあの地下鉄にとって見せ場となる素敵な瞬間があります。春になって緑が芽吹いてきて、ああ、

今日は楽しみだ、どれぐらい芽吹いたかなと思うと、吉川晃司がしゃべり出します。吉川晃司で頭がいっぱいになって、ああ、今日も緑を見ないでしまったということがありました。つまりあのメッセージは、地下に入ってからでいいわけで、あそこは仙台市の地下鉄として緑を見せる演出をしなければいけないんです。あの季節は絶対だったと思います。

- お城へのアクセスや、お城の辺りを歩く時の怖さについてもずっとあそこを天然記念物として保全してきたということもあり、私たちには近寄りたいたいものがあるのですが、それをもっと皆さんがあの緑を楽しめるような演出をむしろ考えるということが、ここに一文載っていなければならないのではないかと思います。経済活動やリニューアルを考える前に、もう少し緑の今の美しさを生かすリテラシーというものを向上させるべきだと思います。
- 緑地帯の中に野鳥も来ていますし、セミも鳴きます。意外と私たちが思っている以上に緑地のつながりで豊かな生態系が保たれていると思います。カラスだけではないと思います。世界に輝くということですから、例えばそういう仙台圏と都心部がこの緑地によって共存しているんだと世界に言えるくらい、生態系と共存している景観こそが仙台市民の文化だと感じるようなことをやっていくなどが、もう少しここに入るといいと思います。
- 定禅寺通で昨日もお茶のイベントをやっていましたが、排気ガスに包まれ、車のゴウゴウする音に囲まれながらお茶を飲んでいました。都心部の緑の景観を生かすのであれば、やはり車の交通について、真剣に考えていかなければいけないのではないかと思います。人の営みが景観になっているわけですから、その辺のリテラシーのことをここに一文書いたらどうかなと思います。
- 次期総合計画の重点的な取り組みの視点の「交流都市づくり」に、投資促進や、賑わい創出とありますが、何か違うと感じます。本当に人間が楽しい時はどういう時なのかということが、ここに出ていません。人間は、文化的な刺激みたいなものに一番喜びを感じるし、これから高齢社会にもなります。ここに出てきた勾当台公園のファニチャーも、座ってくれるなという不安ばかりのファニチャーで、背もたれもなければ、ここで寝ないように突起物が出ている、非常に人をはねつけるデザインのものだなと思います。
- 外国の事例を見たら、みんな背もたれがあります。背もたれのないところに高齢者は長時間、座れません。そこでくつろいでおしゃべりをするということであれば、人にやさしいファニチャーなどを選ばなくては

いけません。そういう内容も、今後の取り組みの中に入れておくべきなのではないかと思いました。

- 堀会長
- ・文化という視点は欠かせないという話で、商業ベースに偏ってはないとは思いますが、そういう印象を余り与え過ぎないほうがいいのではないかというお話でした。一番大事なのは、人に対する配慮という視点で、人に対する配慮というのは、緑を見たいのに吉川晃司のアナウンスが流れるという、人に対する配慮というのがないのではないか、もっと丁寧な配慮がいるのではないかということです。
 - ・人に対する配慮というのは、今日の事務局が用意したこの写真を見ると、まさに事務局が考えているのはそういうことで、仙台市の例として出ているのは、人をどうぞお座りくださいとか、さあ、ここで楽しんでくださいとか、ゆっくりくつろいでいってくださいというメッセージが極めて希薄です。それに対して他の写真はとても豊かにそういうのが出ています。事務局のこの写真は、百聞は一見にしかずで、人を大事にするんだという宣伝をしているように私は感じました。人に対する配慮というのは、極めて重要な視点だろうと思います。
 - ・先ほどの緑豊かならそれでいいのかというのとつながってくるかと思うのですが、人間が介在して、人間がそれを享受しないと、緑の豊かさもプラスに評価されないのです、そのためには人に対する配慮というのは欠かせないと思います。
- 稲葉委員
- ・今の吉川委員のお話と非常に共通するところもあると思うのですが、今日のお話の中で、人が主役というお話がいっぱい出てきているのですが、人って誰のことを言っているのかなと。その主語は、住民、もう一つ、観光客、来訪者という視点の2つあると思います。特に、交流人口の拡大や、賑わい創出という意味では、外から来た人に優しいとか、外から来た人に美しいと感じていただくということがあると思います。
 - ・先ほど椅子のお話が吉川委員からありましたが、先だって外国から来たシニアのご夫婦は、仙台に2泊するのだけれど、街なかを歩くのに休めるところがなかなかないんだという話をしておられて、こういった椅子のことをおっしゃっているのかなという感じがしました。
 - ・そういった対象が誰なのかということによって、ちょっと文章が変わってくるのかなということが一つ。もう一つ、市民からのアンケートで気がついたことなのですが、12 ページの間 12「あなたが個人的に気に入っており、ほかの人にも薦めたい仙台市の景観はどこですか」という問

の結果は、定禅寺通がトップで 58 件あるのですが、問 18 の中で、「あなたが仙台市として良好な景観づくりに重点的に取り組む必要があると思う場所はどこですか」という中にもトップが定禅寺通なのです。これは、定禅寺通がいいところだから、もっと良くするための定禅寺通に重点を置く必要があるよという意見なのか、どうなのかはもう少し分析してもいいかなと思いました。

- ・特に、問 18 に関しては、仙台駅東口、仙台駅前、旧さくら野など、ここは本当に何とかしたほうがいいのではないかなと思うところとともに、定禅寺通が挙がってくるというのは、何か趣が違うというか、答えている方と考え方が違うような気もしました。この辺も、もう少し分析してもいいのではないかと感じました。

堀会長 ・最後のご指摘は、平成 30 年度市政モニターアンケートの、例えば 12 ページあたりですか。定禅寺通がとかく挙げられているのですが、それはプラスで挙げたのか、気になるという意味で挙げたのか中身をもう少し知りたい、分析する部分ではないかというお話ですね。

- 橋本委員
- ・後半のお話、パワーポイントで言うと 26、27、28 で、これから仙台市の目指していく街の姿、特にこの道路の街並みのこれからの取り組みイメージがあるわけですが、この写真を見た時に、横浜の元町の通りと仙台市の本町の家具の街がすごく似通っています。何が言いたいかということ、多分本市の本町は横浜の元町にもひけをとっていませんということで、写真を出しているかどうかわかりませんが、こういった写真を見たときに、すごく気持ちもいいし、何か居心地がよさそうだなというようなイメージはあります。
 - ・理由を考えた時に、例えば車道と歩道の段差が余りなかったり、電柱が無電柱化されているというような形が、やはりその気持ちよさを創出しているのかなと思っています。
 - ・ただ、仙台市もこういった現道の環境整備ということをこれから進めていく上で、段差の解消だったり、無電柱化だったりということの一つ一つ進めていかないと、どんなにすごく緑が多くても、そしてまた、歴史的な建造物があっても、そういったものに邪魔されてしまうということもあります。必要性は認めますが、なかなか進まないという現実もある中で、そういった一つ一つの課題についても都市整備局のみでは対応し切れない現実があるわけですから、関係する各局とそういった取り組みも丁寧に洗い出しながら、どうしたらすごく気持ちのいい、また人に優

しい居心地のいい空間をつくれるのかという点については、考えていかなければならないのではないかと考えています。

- ・ 地元で愛されない空間が、外から来る方々に愛されるわけがないというのも私は考えるところですので、そこも総合的に考えていかなければなりません。前段にもありました屋外広告物、そういったものも大きく関係してくると思いますので、こういったものも含めて総合的に考えていかなければならないと感じました。

- 堀会長
- ・ 景観だけで事が運べるわけではないので、最後は市全体の取り組みにはなるのかと思います。
 - ・ それから、先ほどのまとめで抜けていましたが、主語は居住者か、来訪者かというご指摘をいただきました。両方とも人なので、大きくくくると、結局人に対する配慮で、もちろん居住者に対する配慮と、来訪者に対する配慮というのは、要するに丁寧に人に対する配慮をすれば、丁寧という中には、対象者の違いも織り込むというのも丁寧の中には入りますので、当然そういう視点は欠かせない部分です。

- 舟引委員
- ・ 市政だよりも配られましたので、ここからお話をすると、一番わかりやすいかと思います。この特集は、区制移行 30 周年が今年に当たるので、4月号にこれから1年間特集しますという案内があり、その次の月からテーマが1個ずつあって、関係する市の職員がインタビューして記事を書くと、こういう趣旨のもので、栄えある第1号が「杜の都」で、私が光栄にも選ばれたということです。
 - ・ 緑、杜の都でグリーンインフラの効果は三つあるということを文中に書いています。総合計画のところでもグリーンインフラという名前が出てくるのですが、総合計画のグリーンインフラは僕が言ったわけではなく、最初から事務局案にあったテーマだと思います。
 - ・ グリーンインフラの効果、一つ目は環境、特に防災。これは皆さん言っているからですが、多分皆さんが一番気がついてないことで私が強調しているのが、二つ目の経済効果。三つ目は「杜の都」という名前。震災復興でできてきたこの定禅寺通を初めとする都心の景観ということで、仙台市は一体幾ら経済効果があったのだろう。計算した人がいるかどうかはわかりませんが、観光はもちろんですが、都市間競争において、仙台市の持っている核は、多分ほかの政令指定都市の中では大きな特色があります。かなり儲かっているはずですが。景観はいかにもお金と関係なさそうなのですが、仙台市というものを商品として考えた時に、極めて

高い効果を持っているのですよということを、景観総合審議会、総合計画審議会の中で申し上げました。結果として、その三つが地域の誇りや市民の誇りにつながっている、というのが市政だよりの説明です。

- もう一つ、次期総合計画の都市像のところでは私が申し上げた言葉の一つは、「世界に輝く」という文字です。国内で比較をしてもしょうがない。仙台を磨き伝える。先ほどどなたかおっしゃっていましたが、違和感があるかと思いますが、世界に輝くというのは、世界の中で仙台市を考えて、もっともっと魅力を磨いていかないと、都市間競争に勝てないということと、もう一つは、その下の「品格のある」という言葉です。どんな都市景観が美しいとかというより、やっぱり品格がある、これまさに屋外広告物行政をどういう方向で考えていくかという時に、この都市の品格というのは、とても大切なキーワードではないかと思って、主張して申し上げました。
- あとは賑わいの話です。空間をつくり出しても、人が使っていないと意味がありません。その時に、経済効果より、「人の活動だ」と、吉川委員が先ほどおっしゃいました。
- 19 ページに仲通りの写真があります。これも私がかんでいたところがあるのですが、今はこの姿ですが、ここまでくるのに約 20 年。何のためにつくったかという、もう 100% 経済効果をどうやって生み出すかということ、三菱が主体となったディベロッパーと地主さんが知恵を絞り抜いて、20 年間取り組んできてやっとこの姿になりました。
- ここまでくる途中に、例えばベンチの形はどんなのがいいのだろうかということも含めて、何が大変かという、道路を管理する道路管理者、ここで言う仙台市。それから交通を管理する警察。今まで前例のないショップを出すとか、ベンチを置く、車道に物を置くというのは、行政と必ず大バトルをやるわけです。それを 1 年、2 年かけて社会実験と称して少しずつ相手を緩めていって、ここにきているのですから、ぱっと形だけ真似をしてもうまくいかず、そういうことを積み重ねていく必要があります。
- ところが、仙台市は一ついいことがあります。大手町、丸の内というのは、居住人口がほとんどいませんが、仙台市は都心にたくさん住宅があって人が住んでいます。だから、休みの日とかも賑わって、ビジネスの時も賑わう、ここは 24 時間賑わうポテンシャルを持っています。海外の都市になると、都心に住んでいる人たちが街に出て賑わいを生むという、そういう仕掛けをつくっていかなければいけません。それは多分ポテンシャルとしては十分にあります。

- ・ここからが市役所への苦情ではあるのですが、これを縦割りでやっていると絶対にできません。景観行政で住宅に住んでいる人を街に引きずりだせるかという、そんなことはなく、まちづくり、道路管理、警察、そういったものをある程度うまく束ねて一つの方向性で動かすような仕組みにしていかないと、うまくいきません。総合計画に参加させてもらって、仙台市もかなり縦割りの印象を持ちました。そこを横串をうまく刺すのに、都市の美しさや、品格、賑わいという言葉で何かまとめることができないだろうかなと思っております。文化は、私も専門なのですが、そこまでたどり着きませんでした。

- 堀会長
- ・実際に良いものをつくるというのは、舟引委員が言われたように、大変なこととして、通りにベンチを置けばそれでいいんでしょうというような簡単な話では全然ないのです。
 - ・少しだけ解説しましょうか。何を解説するかというと、27 ページ、28 ページ。先ほど横浜と本町を比べて、似てますよねという話がありましたが、実は全然違うので、どのぐらい違うのかというお話を少しだけします。
 - ・横浜を見ていただくと、例えば日よけ、雨よけのために全部建物の1階だけセットバックして、2階が覆いかぶさっているのがわかります。アーケードはないのですが、建物が全部アーケード代わりになっています。だから、人間はこの1階のところ、本来建物があるべきところに建物がないので、そこを歩けて、雨も日差しもよけられるのです。本町を見ると、敷地境界いっぱい建物が建っているから、雨も当たり放題、日も浴び放題。全然違います。
 - ・それから、本町は、セミフラットといって、車道と歩道をすりつけています。横浜を見ていただくと、ちゃんと歩道が上がっているのわかります。道路のユニバーサルというのは、こういうことなのです。歩道と横断歩道の高さの差があると、そこで段差が生じて車椅子とか、乳母車が非常に走りにくいので、方法は2つしかないのです。歩道に合わせて横断歩道を上げるか、横断歩道に合わせて歩道を下げるかです。どちらの方が費用がかかるか考えたとき、全部の歩道を下げるのに莫大なお金がかかるのがわかります。
 - ・横浜の写真を見てください。左の写真で言うと、車が通っていて、車の前のところが黄色くなっていて、そこだけ横断歩道と歩道がすりついているのわかります。それ以外のところは歩道が高いわけです。横断歩道だけ上げれば、いとも簡単にできるようになります。つまりこれは、仙

台市とは全く違う手法のユニバーサル化をやっています。これのほうがお金がかからず合理的です。だから、二つはまるで違います。

- 横浜の写真を見ていただくと、照明柱がすごく少ないのがわかりますか。写真の撮り方で、本町のほうは広角で撮っているの、遠くに見えて少しわかりにくいですが、左の横浜の写真には白い服を着た女性が歩いていますね。女性の上、建物の2階と1階の際のところに照明が入っているのわかりますか。照明柱はないですが、公共照明が、今ここで私がカウントできるだけで4つ入っています。これはお店の壁を使って公共照明をつけています。こういうことは、ものすごく時間をかけなければいけないです。
- 先ほどの1階のセットバックも、ものすごく時間をかけないといけません。横浜は、そういう苦勞の連続で、30年にわたって市と商店街とが工夫に工夫を凝らした結果なのです。やはり景観だけでは当然、できません。都市計画から街路から何から全部巻き込んで総合的にやらなければいけないのです。こういうことを仙台市には絶対今後、不可欠でやっていってもらいたいですし、やるべきなのです。
- 今日載せていただいた写真のように、人を大事にしている姿勢というのが、やはり仙台市にはもっともっとよく考えていただきたいところだと思います。
- 次の景観総合審議会が11月ということで、事務局の考えるネタをなるべくたくさん提供していただきたいので、特に30ページ、取り組みについてご意見はありますでしょうか。目指すべき方向が二つここに今掲げられていて、イメージその1が、「ケヤキ並木のシンボルロードを中心に通りの美しさが仙台を訪れる人をひきつけ、これは住む人も含めて構わないと思いますが、通りを歩くこと、通りで過ごすことを楽しみ、通りに賑わいが生まれている」。
- もう一つのイメージは、「シンボルロードに公園、オープンスペース等が有機的につながり、市民が暮らしの場として、これも来訪者も入っていいと思いますが、楽しんで過ごしている。そこに、観光やイベントへの参加など様々な目的で仙台を訪れた人の楽しむ姿が加わり、街の賑わいを生んでいる」。両方とも人ということが中心に書かれています。人に対する配慮、人を大事にしますという、この取り組みのイメージを受けて、どういう取り組みが必要なのかについて、もう一度いかがでしょうか。

巖委員 ・冒頭も人を中心に考えるというようなことを申し上げたのですが、世界

的には、もう車中心の時代ではなくなってきています。アーバンリビングという言葉があり、都市を市民の、人のリビングとして考え、リビングとして考える時は、やはり車のようなスピードで走っていくのではなく、歩行者のスピードで全てを考える。その歩行者は、やはり子供もお年寄りも障害者も。もう少し具体的に言うと、昔は歩道は狭くて、車道中心で2車線、3車線でしたが、アーバンリビングにしていくと、歩道と車道の幅が逆転するのです。

- ・歩くための歩道ではなくて、その歩道にはベンチがあったり、人がそこに座ったりということができるような街に徐々に変わっていきます。そういうことをしていくには1年、2年、10年では無理で、長期的なビジョンとして、そういった方向性をやはりこれから出していくべきではないかと思います。
- ・また、ここから話題が少し戻るのですが、スライド14ページの今後の課題のところ、先ほど城や横丁文化といった話が出ていましたが、私としては、仙台の街は広瀬川が非常に大事な財産であると感じています。しかし、残念ながらまちづくりの中で広瀬川が十分活かされていないという街のつくり方になっているのです。
- ・例えばこれからアーバンリビングを目指すのに50年かかるとしたら、全体の街の構造を広瀬川を活かすような街にしていくのは、100年かかるかもしれないですが、ただ、やはりそのビジョンをどこかで出していないと永遠にならないので、どこかで広瀬川を活かしたまちづくりを街の景観の中で提案していく必要はあるのではないかと思います。

堀会長 ・川という視点を入れるべきではないかというお話と、道路の場合だったら、ベンチを置くなど、やはり人を中心ということをよく考えるというお話です。仙台市は割とベンチがありません。ベンチを置くということは、道路施設としてのベンチもありますし、やる気さえあればすぐできます。やる気があっても法整備とかで時間のかかるものもありますが、すぐできることも大分あります。

杉山委員 ・アンケートの19ページ、景観重要建造物等という点にご意見しますと、今巖委員がおっしゃったような広瀬川なども入ってきていますし、以前塗り替えで大橋が審議会で取り上げられたりしましたが、大橋も入ってきています。今、急いで調べたところ、大橋は1938年築造であり、お城も大橋辺りはかかわってきますし、広瀬川と土木というような、街の向城みたいなところも景観的な部分で非常に重要だと思います。

- ・それにプラスすると、この四ツ谷用水というのも、ブラタモリが来ているので、マニアの方も多いはずなので、ここの意見は大変有意義な感じもいたしました。
- ・東北大学や学院大学のキャンパスのほうも上げられているなど、やはり学びの都という一面も大きく感じます。大学が沢山あるわけですから、その協力を得ながら、大学のところも含めていくことで、有意義な景観の一つになるのではないかと思います。そして、現代の都市として発展してきた仙台と景観とのつながり、そして現在に至るといようなところもぜひ皆さんに伝え、そして残していくというのでもいいかなというのを感じました。
- ・教えていただきたいのですが、仙台の戦災で焼け残った地域というところは、先ほど話題に出た横丁のことなのでしょうか。東京でも実は大空襲で残ったものがあり、昭和期を知るのにすごく貴重なところだったりしますので、そういうところを見るというのも重要だと思ったりしました。

杼窪委員 ・横丁は焼け跡の闇市です。

杉山委員 ・焼けてその後、闇市なのですね。それもまたおもしろいと思います。そういう街の成り立ちがわかるようなところが、いろんな時代の層で仙台を捉えながら、あの時があつてというように、そういう重層的な感じも含めていただけると本当に歴史ある、文化がある杜の都という感じがして楽しいのかなという感じを持ちました。

吉川委員 ・人がなにか取り組みながら、都市空間の質を向上させる。質を向上させると言われても何かいま一つピンとこないなので、どこかでパイロットプロジェクトというか、それがどういうことなのかということを具現化していきながら、全体のリテラシーを高める必要があるのかなと思います。

・本町の写真がありますが、本町の皆さんは自分たちの街の景観や自分たちの街をどうしていくかということに非常に責任を持っておられるし、行政ともすごく話しをされているのではないかと思います。この通りから錦町公園や緑地、そして定禅寺通につながるエリアで、橋本委員もおっしゃられたとおり、非常に可能性のある街だと思います。

・しかし、どんどん地権者がかわって行って、どういう資本が入ってくるのかも極めて心配なエリアでもあると思います。それから、ここを歩いているとお休みできるところが本当になくて、電力さんの変電所のとこ

るにオープンスペースがあるのですが、色々なルールがあるらしく、なかなかオープンではありません。ここは若い人たちもまちづくりに取り組んでいらっしゃるので、多くの市民がかかわりながら、この住人たちと景観に関する事、何か仙台市がやろうとしていることを、市民と共有できるエリアとしては、とてもいいのではないかと思います。

- 堀会長
- ・私から一つ。これは前回もご説明があったと思いますが、パワーポイントの8の二つ目、評価検証のまとめで、規制の施策が一定程度成果を上げて、誘導施策は弱いとなっています。今後の施策の中心は、恐らく誘導施策になると思います。そこで、今仙台市が持っている誘導施策を挙げて、それが景観の観点から何か物申せないかや関われないかを全部チェックしていただきたいなと思います。新しく施策を起こすというのは大変骨の折れることなので、それよりも今現在、仙台市が持っている施策を少しアレンジしたり、それにちょっと乗っかるということのほうが、よほど効果的なのです。
 - ・すぐ思いつくものとしては、総合設計制度です。総合設計制度は、ものすごいインセンティブなのです。ものすごいインセンティブにもかかわらず、空地あけなさいと量の話しか書いてなく、質の話が全然出てこないの、そもそも問題がいろいろ起こってくるのだと思います。
 - ・具体的に例えばベンチ幾つ、何平米当たりノルマで一つ、それはちょっと暴論ですが、今持っている誘導施策を有効に使うにはどうしたらいいかと、こういう視点で1回整理していただくと、大分物事が見えてくるのか、という気がしております。誘導施策を新たにつくるのは相当難しいので、既存の施策をうまく使うという視点を持っていただきたいです。
 - ・もう一つは、先ほどの道路整備みたいに、市がやれるもので、基本的な施策というのはやはりお願い施策なのです。誘導でもそうです。民間にやってもらうように誘導したり、民間がやることを規制したりなんかすることを市がやるものについてはどんどんやればいいのです。ただ、先ほど橋本委員、舟引委員から縦割りがあるという話がありましたが、そこは頑張ってください、縦割りを取り払い、風穴をあけて市として良い方向にやっていただきたいと思います。例えば具体的に言うと、定禅寺通のベンチは少なく、クオリティーも低いです。ああいうところを直すとかは、できるはずですよ。

- 舟引委員
- ・今度は極めてプラクティカルな話です。景観部局というよりは、都市整

備局全体で検証されているかどうか分からないのですが、確実に押さえておかなければいけないのは、仙台第一生命ビル（黒ビル）の話です。あの建物は 50 年物なのです。50 年物のビルというのは、もう建替え適期であることは間違いありません。建替えは持ち主だとか、資本に応じてあるのですが、先ほどの大丸有の話も、戦後建替えた 30 年、40 年物の建物が出てきたときに、どうやって建替えて、その建替えた際にどういうふうに誘導していったら、この賑わいや、美しいものができるかという、不動産の価値を高めようかというところから始まっている発想です。そうすると、都心部と言っているのですが、この都心部にあるビルの築年を調べておかないと、どの段階で更新が出てくるか、ビルをきれいにしようと思っても都市更新の時は、建替えの時以外にはないので、建替えを目指して景観のコードをつくっていくし、それをうまく支援の仕組みを用意するなど、都市計画マスタープランを見直すのであれば、そういう基礎調査もきちんと押さえてやっていかなければいけないような気がします。

- それの一つと、先ほどブラタモリの話も出たのですが、ブラタモリで実際に、お城の下の崖を見に行っただというのがあるって、おとといの総合計画審議会の中でも出たのですが、古い都市計画のゾーニングというゾーニングではなくて、仙台のゾーニングとして、どこをどういうふうに磨くのか。
- 先ほど杉山委員がおっしゃったのですが、ほんの 500 メートルも歩くと、市内には燃えてない街区があります。そこは、地割りが 100 メートル角くらいで、江戸時代の地割りがそのまま残っていて、ほかに道路がないので、建物が建てられなくてみんな困っていたりします。
- 仙台城跡の下は、今、追廻公園にしていますが、竜の口溪谷があって、花壇や、東北大の運動場があって、僕は外から見た時に、何でここをうまくきれいにして使わないのだろうと思うようなところがありました。対外的に仙台は何が美しいのか、という時に、それを踏まえた上で都市計画のゾーニングにつなげていかないと、戦略的にどうだろうかと思っています。これが 10 年に一度の今、極めていいチャンスなわけです。
- 総合計画と都市計画マスタープランをあと一、二年かけてやっていこうというところなので、都市の将来戦略や、将来ビジョンにつなげるようなことをうまく乗せていかなければなりません。今の繁栄期が 60 年前、70 年前につくった戦災復興の結果を今我々がいただいているわけですから、今度は 20 年後、30 年後に向けて種を蒔いておかないときれいにならないのです。とてもいいタイミングではないかと思しますので、その

辺の足回り、そういう調査からスタートしておかなければいけないと思います。

堀会長 ・ 景観だけでできるわけではないので、そういうのとうまく連動してやるしかない。そういう意味では、景観にとっても大チャンスということだろうと思いますので、よろしくお願いします。

杉山委員 ・ 参考資料について質問なのですが、吉川委員からも文化の観点が少ないのではないかというお話しありましたが、今日はぜひ景観的立場から見ても、もう少し書き込んでほしいというようなことが、総合計画審議会のほうに伝わったりする可能性はあるのでしょうか。（「細井次長は担当部長ですから」の声あり）そのあたりをぜひ最後に教えていただきたいと思います。

堀会長 ・ そうですね。今日の議論は、景観という狭いところではなくて、仙台市がどうあるべきかというお話ですので、総合計画のほうも十分つながるかなと思いますので、どうぞご配慮をお願いします。

細井次長 ・ 今日の議論は、担当部局のほうにお伝えします。

堀会長 ・ よろしくをお願いします。

司会 ・ 最終的には第3回の総合審議会の時に、景観総合審議会からの提言書という形でいただいて、それを踏まえて具体的な施策の見直しに取り組んでいくという形をとりたいと思っておりますが、その辺はよろしいでしょうか。

堀会長 ・ 提言書という形でまとめるということですが、よろしいですね。よろしくお願いいたします。

6. 閉会